

令和6年度 教育目標・経営方針・重点努力目標

(1) 本校の教育目標

知・徳・体の調和をとり、健やかで自分らしく生きる児童の育成を目指す。

校訓	目指す子どもの姿
明るく・強く	<ul style="list-style-type: none"> ・目標やめあての達成に向けて、自ら学び、最後までやり遂げる子 ・よく見、よく聴き、よく考え、自分で正しく判断し行動できる子 ・心豊かで、相手の気持ちを考えて、思いやりをもって協働できる子

(2) 経営方針

- ① 子どもたちが自ら生き生きと学び、互いを認め合い、仲間との絆を大切にする学校
- ② 教職員が自らの特性（専門、得意分野、経験等）を生かし、「チーム学校」の一員として、協働体制で教育活動を進める学校
- ③ 保護者や地域の人々との絆を大切にし、連携・協働して教育活動を進める学校

(3) 本年度の重点努力目標

①-1 確かな学力の育成

- ・ 基礎的・基本的な学力・知識・技能の確実な定着を図るため、業前時間（立北タイム）や家庭学習等の自主学習を活用し、個別最適な学びを進める。
- ・ 主体的・対話的で深い学びを目指し、「課題の把握、聴き合う活動、振り返る活動」を重視する授業を実施する。
- ・ 探究的な学習や体験活動等を通し、子ども同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、他者がもつ自分とは異なる考え方や感性に触れ、そこから刺激を受けて、自らの考えを更新していく協働的な学びを進める。
- ・ ICT機器やデジタル教材を活用し、情報の収集や選択をしたり、考えをまとめたり、表現したりすることで、学習内容のより深い理解を促す。
- ・ 全教職員が、インクルーシブ教育の視点にたち、学習時における指導・支援の工夫を図ることにより、全ての子どもにとって「分かる・できる」授業を構築する。

①-2 豊かな心の育成

- ・ 児童が主体的に活動する学級活動や児童会活動・異学年交流活動、学校行事等を通して、きまりやモラル・マナーの大切さを理解し、自治意識を高め、児童の自主自律の精神を育む。
- ・ よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために特別の教科「道徳」の充実を図るとともに、全教育活動を通して道徳教育を推進する。
- ・ 地域の特性を生かした体験活動、保護者や地域の方々との交流等を積極的に取り入れ、自己肯定感や協力、思いやり、感謝の気持ちなどを育む。
- ・ 学校生活の中で、自分の役割を果たそうとする意欲や態度を育て、児童の社会的・職業的自立に向け、家庭や社会で必要な基盤となる資質・能力の育成を図る。

①-3 健康（保健・食育・安全）教育の推進

- ・ 基本的な生活習慣の大切さや食に関する正しい知識を理解させ、自分の健康状態に関心をもたせる。自分の健康を適切に維持・管理し、生涯にわたって健康な生活を送ることができるよう改善していく資質や能力を育む。
- ・ 体育の授業や業間活動で運動の楽しさや喜びを味わわせ、体力の向上を図るとともに、生涯にわたって積極的に運動に親しむ習慣や意欲を育む。

- ・ 安全教育、防災教育等では日常生活の様々な場面で発生する事故や災害等の危険を理解し、「自分の命は自分で守る」意識をもち、安全な行動がとれるようにする。また「共助」の意識をもち他の人々の安全にも気配りできる資質や能力を育む。

②-1 学び合い、支え合う教職員

- ・ 教員が学び合う場として、各種研修会以外にミニ研修会やメンターチーム等を設定し、組織的に授業力・学級経営力等を育成する。
- ・ チーム立北、「チームで見る」「チームで関わる」「チームでつなぐ」を合言葉に一丸となって学校運営及び児童指導にあたる。
- ・ 隣接学年による合同授業、担任間の授業交換、非常勤講師・支援員との連携を推進する。教材準備や成績処理等の分担、児童に関する情報交換を進める。

②-2 生き生きとした笑顔のあふれる教職員

- ・ 会議を精選した上で、資料の事前配布、要点を絞った提案を行う。
- ・ 教職員の在校時間を的確に把握し、時間の有効活用やワーク・ライフバランスの視点を取り入れた教職員の働き方に対する意識改革を図る。
- ・ 定時退校日を設定するとともに、年次休暇の計画的な取得を進める。

③ 保護者や地域の人々と連携・協働して教育活動を進める学校

- ・ 家庭や地域と連携・協働し、専門性や地域の力を生かした教育活動等を実施することで学校での学びを豊かにする。
- ・ 授業サポートや環境整備等に学校支援ボランティアを活用する。
- ・ 学校ホームページ等を通して学校経営方針や子どもたちの様子等学校の情報を積極的に発信し、保護者や地域の人々の理解・協力を得る。
- ・ 地域の各種団体との連携を密にし、地域行事や社会教育活動への子どもたちの積極的な参加を働きかける。
- ・ 9年間の義務教育で子どもを育てていく観点に立ち、学びの連続性を図るため、情報交換・授業参観・体験入学等を行い、幼保小中の連携を深める。